

(様式第3号)

令和7年度 租税教育事業実績報告書

委嘱校名	都城市立祝吉中学校
所在地	〒885-0015 電話番号 0986-22-0697 宮崎県都城市千町4962番地
ふりがな 校長名	うわとく こうたろう 上徳 浩太郎
ふりがな 担当教諭名	わかまつ あやか 若松 彩加
<p>1 租税教育の成果</p> <p>租税教室を1回(第1学年対象)実施したことで、生徒たちの税に対する関心が高まった。第3学年は社会科授業での学習や税の作文への応募なども実施したため、生徒の中には、自ら税について調べたり、教員に質問したりする生徒も見られた。</p> <p>2 租税教育についての反省</p> <p>租税教室1回のみの実施だったので、理解を深めるような取組がほとんどできなかった。第3学年は、租税教室や社会科の授業以外で主体的に租税に関して知識を広げられるような活動ができなかった。</p> <p>3 租税教育についての今後の課題</p> <p>社会科の授業や租税教室等を活用して、全校生徒で税について学んだり、考えたりする機会を継続していくことを検討していきたい。</p>	

- (注) 1 6月に開催される校長・担当教諭会の資料として活用する。
2 1年間の実績をA4判、10枚程度にまとめること。
3 2部作成し、4月末日までに地区協議会会長(事務局)を経由して中央協議会会長に提出する。

(その他)

租 税 教 育 事 業 実 績		
実施年月日	事 項	内 容
4 月	年間計画の作成	<ul style="list-style-type: none">・ 都城税務署との打ち合わせ・ 年間計画の作成
5 月	校長・担当職員会	<ul style="list-style-type: none">・ 担当職員のみ参加
7 月	租税教室	<ul style="list-style-type: none">・ 租税教室「税とは何か」 早水体育館にて実施
	租税作文の指導	<ul style="list-style-type: none">・ 国語科の授業にて説明 租税作文の募集及び制作
9 月	租税作品の審査	<ul style="list-style-type: none">・ 租税作文の審査及び提出
2 月	社会科授業の実施	<ul style="list-style-type: none">・ 「ふるさと納税」について、 第3学年を対象に、社会科教 員が特別授業を実施
3 月	年間の反省	<ul style="list-style-type: none">・ 1年間の振り返り及び実績報 告書の作成

令和7年度 租税教育の実際

1 本校の教育目標

本校では、豊かな心をもち、確かな学力と体力を身に付け、社会の変化に主体的に対応し、自立できる生徒の育成を目指している。

2 本校における租税教育の目的

本校における租税教育は、税の意義や役割について正しく理解させるとともに、社会の一員としての自覚を育てることを目的としている。具体的には、以下の点を重視していく。

- ・ 税が社会生活を支える重要な財源であることへの理解
- ・ 公平・公正な社会の実現における税の役割への理解
- ・ 納税の義務と権利についての理解
- ・ 社会の形成に主体的に関わろうとする態度の育成

3 取組の実際

(1) 租税教室

外部講師（税務署職員）を招き、第1学年を対象に租税教室を実施した。授業では、税の種類や使い道についての説明に加え、身近な公共サービスとの関わりについて具体的に学んだ。また、「税がなくなるとどんな社会になるのか」という映像資料を見る体験を取り入れることで、生徒が興味・関心をもって学べるよう工夫していただいた。また、「1億円のレプリカを実際に持つてみる」という体験もさせていただき、生徒たちに強い印象を与え、税の重要性を実感する機会となった。事後の感想では、「税がなければ生活が成り立たないことが分かった」「将来は納税者として責任を果たしたい」といった記述が見られ、理解の深化がうかがえた。



【熱中症対策も兼ねて、早水体育館で実施した】



【1億円のレプリカを体験】

(2) 「税の作文」コンクールへの応募

夏季休業中の課題として、「税の作文」コンクールへの応募に取り組ませた。事前指導では、租税教室での学習内容を振り返りながら、国語科と連携して、自分の

生活と税との関わりについて考えさせた。その中で、税についてインターネットや様々な資料を活用して自分なりに調べたり、集めた情報をもとに考えたりした生徒が多かった。生徒は、医療や教育、公共施設など身近な視点から税について考察し、自分なりの意見を文章にまとめることができた。

～ 生徒の作文より一部抜粋 ～

○ Iさん (税の作文コンクール 銅賞受賞)

私は これまで「税金」について深く考えたことはありませんでした。しかし、中学生になって、税金について詳しく学ぶ「租税教室」があった時に、考えたことが二つありました。(中略) 私は、この作文や租税教室を通して、税に対しての考えが変わりました。部活動で大会などが行われる施設づくりや学校で使う椅子・教科書・道路の整備や警察・消防など、あたり前だと思っていたことが税金で成り立っていたことを初めて知りました。税金は無限ではないので、大人になって、働き始めたら、しっかり納めようと思いました。

○ Hさん

私は7月に税務署の方から租税教室を受けました。税金は私たちが通っている学校や道路などの公共のものに使われていることが分かりました。税金は私達にとって身近なものであり、なくてはならない大切なものだということが良く分かりました。学校の教室のエアコンに、ふるさと納税のお金が使われており、私達の日々の生活の中で税金が使われていることを忘れないようにしたいと思います。

○ Sさん

中学生の私には、まだ税金に関わる機会がほとんどない。身近にないからこそ自分自身、税金のことを知っているようで知らなかったり、疑問をもつことが多々ある。だが、租税教室の講演を聞いてこんなに税金は私たちの生活に役に立っているのに、不満感や心の隅で「別に知らなくても何も困らないでしょ」と軽く考えていた自分が急に恥ずかしくなった。(中略) 租税教室の講師の方がおっしゃった言葉だが、「しっかりと税を納められる納税者になりましょう」と言っていた。税金は、次の世代に受け渡すバトンみたいだなと思った。

(3) 第3学年における社会科授業

第3学年の公民的分野において、ふるさと納税を題材とした租税教育を実施した。本時では、ふるさと納税の仕組みを理解するとともに、税の役割や意義について考

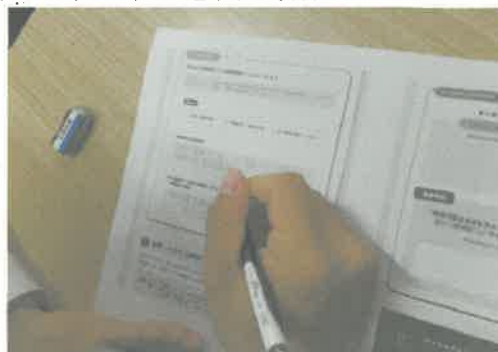
え、制度の在り方を多面的・多角的に捉えることをねらいとした。

導入では、ふるさと納税の概要や税控除の仕組みについて資料をもとに確認し、基礎的・基本的な知識の定着を図った。展開では、「なぜこのような制度が設けられているのか」「制度にはどのような利点や課題があるのか」といった課題を設定し、生徒同士の対話を通して考えを深める活動を取り入れた。

さらに、「ふるさと納税をどのように活用するか」といった問いを設定し、政策としての在り方について検討させた。自治体間の税収格差や返礼品競争などの課題にも着目させることで、多様な立場から考察することを促した。

まとめでは、自らの考えを、根拠をもとに表現する活動を位置付け、思考・判断・表現の一体的な育成を図った。生徒からは、制度の有効性を認めつつも公平性の観点から課題を指摘するなど、根拠に基づいた多面的な意見が見られた。

本時の学習を通して、生徒は租税の意義や役割についての理解を深めるとともに、社会の一員として主体的に社会の形成に関わろうとする態度の育成につながった。



【生徒の感想】

- ふるさと納税の授業を通して、自分が応援したい地域に納税することで、返礼品がもらえるという仕組みを知ることができました。どうすれば、自分が住む地域に納税してもらえるのか、その地域の特色を踏まえながら、深く考えることができました。ふるさと納税は競争と平等のバランスがとても大切だと思いました。
- ふるさと納税の授業を受けて、ふるさと納税は課題も多いですが、市町村のためになるいい取組だと思いました。
- ふるさと納税の授業で、ふるさと納税の仕組みや地域の政策を理解することができました。特に興味をもったことがふるさと納税を利用した地域の政策についてです。自分の地域ではふるさと納税をどのように活用しているのか、もっと理解したいと思いました。
- 今回の授業を通して、ふるさと納税は納税する場所を自ら選択することができるため、税金を納める人や地方の地域にとってもメリットがたくさんある一方で、地域間で競争が起きるといったデメリットもあると学ぶことができました。また、それ

それぞれの地域の特色を生かしている返礼が多くあると知り、地域の良さをアピールできる機会になると思いました。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ 本年度の租税教育の取組を通して、生徒は税の意義や役割について具体的に理解を深めることができた。特に、租税教室や社会科授業における体験的・対話的な学習により、「税は自分たちの生活を支えているもの」という認識が広がった。
- ・ 「税の作文」への取組では、自らの生活と税との関わりを振り返り、自分の考えを表現する力の育成につながった。生徒の記述からは、税を身近な問題として捉え、社会の一員としての自覚を高めている様子が見えたと感じた。
- ・ 一連の学習を通して、将来の納税者としての責任や公正な社会の実現に向けて主体的に関わろうとする態度の育成にも一定の成果が見られた。

(2) 課題

- ・ 税の仕組みや制度についての理解は深まりつつあるものの、その背景にある社会的な課題や多様な立場からの見方・考え方については、十分に深めきれていない面も見られた。
- ・ 学習内容が一時的な理解にとどまらず、継続的な関心へとつながるような指導の工夫が求められる。特に、日常生活やニュースと関連付けながら学びを広げる取組が今後の課題である。
- ・ 生徒一人一人の理解度や関心に差が見られるため、個に応じた支援や多様な学習形態の充実を図る必要がある。